



TITLE:

STUDY ON THE GOVERNANCE OF
CONSTRUCTION CONTRACT FROM THE
IMCOMPLETE CONTRACT PERSPECTIVE(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Zhang, Wenjun

CITATION:

Zhang, Wenjun. STUDY ON THE GOVERNANCE OF CONSTRUCTION CONTRACT FROM THE IMCOMPLETE CONTRACT PERSPECTIVE. 京都大学, 2019, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2019-03-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k21725>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開; 許諾条件により本文は2021-03-25に公開

京都大学	博士（工学）	氏名	Zhang Wenjun（張文君）
論文題目	STUDY ON THE GOVERNANCE OF CONSTRUCTION CONTRACT FROM THE IMCOMPLETE CONTRACT PERSPECTIVE （不完備契約論からみた建設契約のガバナンスに関する研究）		
<p>（論文内容の要旨）</p> <p>本論文は、建設契約がリスク分担ルール，契約変更ルールを主体とする不完備契約であることを指摘するとともに，このような不完備契約が有するガバナンスの不完備性が建設紛争の原因になっていることを指摘し，その緩和策について考察したものであり，以下の5つの章で構成されている．</p> <p>第1章は序論であり，建設プロジェクト契約が有している不完備性を明らかにし，不完備契約理論を用いて建設プロジェクト契約を分析する意義について考察している．その際，契約当事者による認識の齟齬や契約文書の不完備性に起因して，コントラクターが戦略的行動を採用する可能性について議論している．このような戦略的行動を抑止するための方策を見出すために，本論文において不完備契約理論に基づいたゲーム理論モデルを提案することの実際的な意義について考察している．あわせて，中国の建設市場を対象とした実証分析を行うことの意義について論じている．さらに，第2章以降の論文構成について説明している．</p> <p>第2章では，経済学の分野，プロジェクトマネジメント分野で展開されてきた契約理論について文献サーベイを行うとともに，完備契約理論と不完備契約理論の相違点について包括的に考察している．さらに，建設プロジェクト契約に伴う不完備性について論議し，建設プロジェクト契約の基本構造が不完備契約理論の特性であるリスク分担論と契約変更理論により構成されていることを指摘している．さらに，現実の建設プロジェクト契約においては，契約当事者の間における共有知識の欠如が存在するなど不完備契約理論が想定していない問題が介在するため，それが不完備契約の不完備性の原因になっていることを指摘している．このような不完備契約の不完備性が原因となり建設紛争が発生するメカニズムについて考察している．これにより，以降の章において分析に導入される視点の新規性と重要性を明らかにしている．</p> <p>第3章では，オリバー・ハートによる不完備契約理論に基づいて，建設プロジェクトの典型的な不完備性を数学モデルとして定式化している．さらに，建設プロジェクト契約における契約変更プロセスをゲームモデルを用いて表現するとともに，現実の建設プロジェクト契約の実践において必ずしも理論的な不完備契約理論が指摘するような現象とは乖離するような事象が起こりうることを指摘している．その大きな原因の1つとして，クライアントが事前に投資を行う場合，コントラクターの事後の交渉力が増加することを利用することにより，、契約変更を戦略的に実施するという行動が生じうることを指摘している．このようなホールドアップと言われる行動が発生した時に，不完備契約の効率性が大いに阻害されるメカニズムを理論的に分析している．</p>			

京都大学	博士（工学）	氏名	Zhang Wenjun（張文君）
<p>第4章では、第3章の議論を敷衍して、建設プロジェクト契約における不完備性が内生的に発生するメカニズムについて分析している。建設プロジェクト契約において設計変更がしばしば発生するが、このような設計変更は契約時点における当事者の限定合理性が原因となって発生することを指摘している。さらに、初期契約が適切でない場合、設計変更に伴って契約変更が発生することになる。このような契約変更が発生する場合、第3章で考察したような戦略的行動により建設プロジェクト契約の効率が阻害されることを分析している。本章では、このような契約段階における限定合理性により設計変更が発生し、その結果として契約変更をめぐり契約当事者が交渉するようなゲームモデルをベンチマーキングとして定式化している。そのうえで、設計と建設を同一の事業者が遂行するようなデザイン・ビルド契約を導入したような不完備契約モデルを定式化している。これら2つの理論モデルに基づいて、事前の限定合理性により発生するような設計変更に関しては、デザイン・ビルド契約を導入することにより、事業者による戦略的行動を抑止することが可能であることを理論的に証明している。</p> <p>第5章では、中国における建設プロジェクト契約のガバナンスについて概括するとともに、グローバル化社会における建設プロジェクト契約の課題について考察している。具体的には、中国における建設契約約款とFIDICの国際契約約款におけるリスク分担、契約変更ルール条項を比較することにより、両者の間で大きな差異がないことを明らかにしている。しかし、紛争解決のための調停期間、上位法律の改廃リスクに介して行政府の介入を認めている点に中国の契約ガバナンスの特徴があることを指摘している。とりわけ、中国における建設契約約款では、契約紛争解決のための調停期間が極端に短いことが特徴的であり、その理由として中国市場においては建設契約紛争が現実が発生しにくいことをあげている。建設契約紛争の発生が抑制される背景として、中国社会における社会的関係性によるガバナンス機能が強く働いていることを指摘し、このようなガバナンスが働く当事者間においては、戦略的行動が抑止されるとしている。</p> <p>第6章は結論であり、本論文で得られた成果について要約している。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、建設契約がリスク分担ルール、契約変更ルールを主体とする不完備契約であることを指摘するとともに、このような不完備契約が有するガバナンスの不完備性が建設紛争の原因になっていることを指摘し、その緩和策について考察したものであり、以下のような知見を得ている。

1. 不完備契約理論では、最適なリスク分担ルールおよび契約変更ルールを設計することにより、契約内容の効率的なガバナンスを保証できることが知られている。しかしながら、事業者がホールドアップ等の戦略的行動を採用する場合、契約ガバナンスに不効率性が発生することを指摘している。さらに、ゲーム理論を用いて、不完備契約の不完備性が発生するメカニズムを分析し、紛争解決メカニズムの役割について考察している。

2. 建設プロジェクト契約において、発注者、もしくは請負者が設計図書を作成する際に戦略的行動が介在する可能性があることを指摘し、このような戦略的行動による契約の効率性が低下するメカニズムを理論的に明らかにしている。一方、デザイン・ビルド方式であれば設計変更による取引費用を内部化できるため、効率的な契約の設計が常に可能であることを理論的に明らかにしている。

3. 中国における建設契約約款と F I D I C の国際契約約款におけるリスク分担、契約変更ルール条項を比較することにより、両者の間で大きな差異がないことを明らかにしている。しかし、紛争解決のための調停期間、上位法律の改廃リスクに介して行政府の介入を認めている点に中国の契約ガバナンスの特徴があることを指摘している。

以上、要するに、本論文は、建設契約の不完備性がもたらす契約ガバナンスの問題点を考察するとともに、その緩和策について理論的・実証的に分析したものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成31年1月25日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。